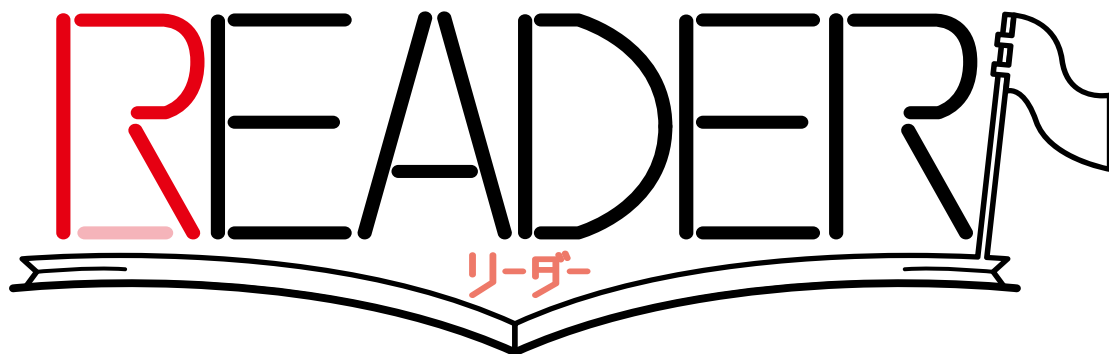


特集

誰もがなり得る「認知症」

10年後には、65歳以上の5人に1人、約700万人が認知症になる

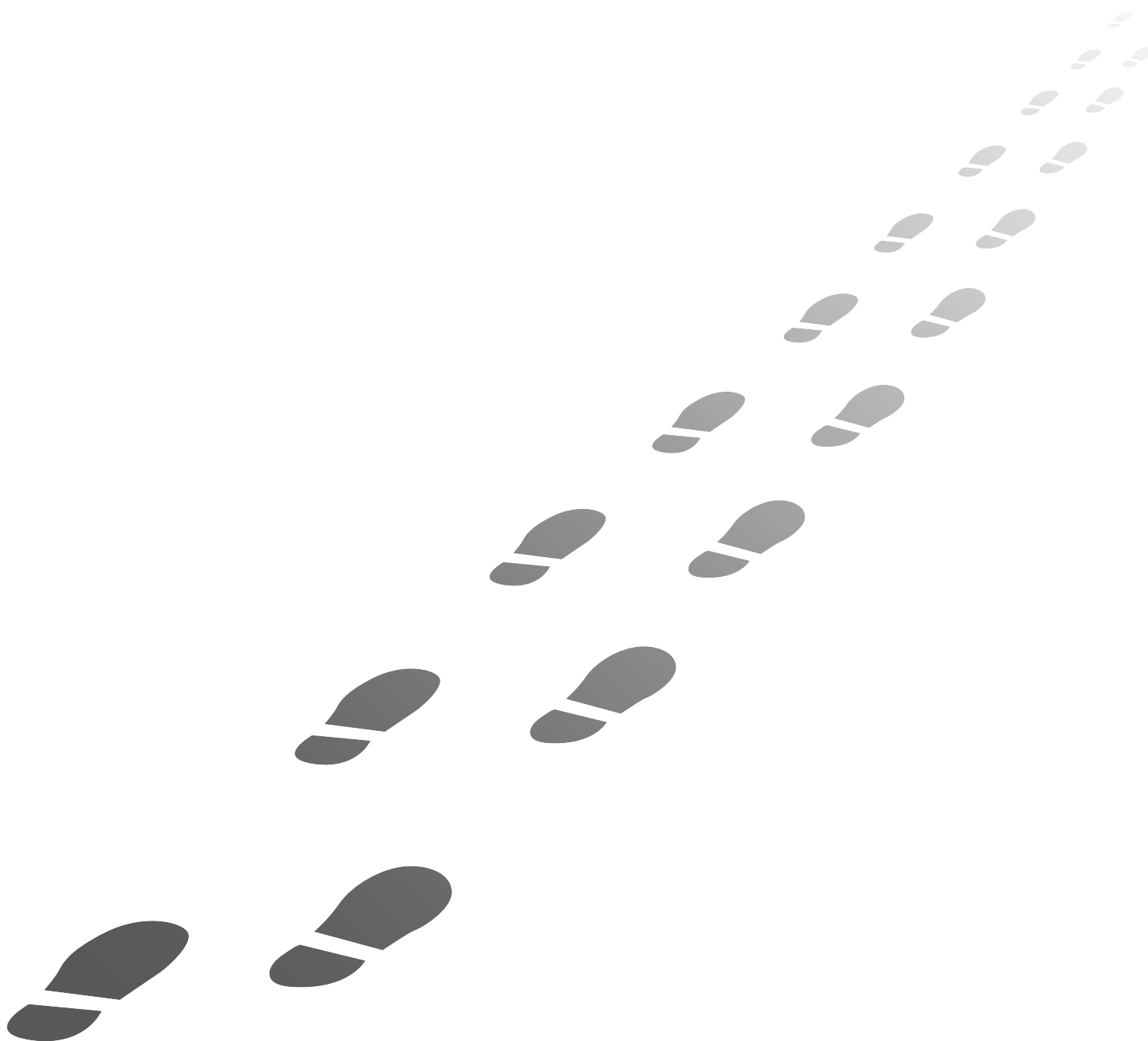
三重県のNPO・市民活動情報誌



2015

5

2015年4月25日発行
通巻197号



2006年2月に京都市伏見区桂川河川敷で、無職の息子が認知症の母親の介護で生活苦に陥り、母と相談の上で心中を図った事件があった。息子は母を殺害した後、自分も自殺を図ったが発見され一命を取り留めた。両親と3人暮らしだったが、父親が亡くなった頃から、母に認知症の症状が出始め、息子1人で介護をしていた。休職してデイケアを利用したが介護負担は軽減されず、仕事を退職することになった。失業給付金などを理由に生活保護は認められず、介護と両立する仕事も見つからない。失業保険の給付がストップし、カードローンの借り出しも限度額に達し、デイケア費やアパート代が払えなくなり、心中を決意した。

誰もがなり得る「認知症」のこと、知っていますか？

日本は世界の中で、最も急速に高齢化が進んでいる国である。今から10年後の2025年には、65歳以上の5人に1人、約700万人が認知症になると言われている。年々増える若年性認知症は、40代～50代で約2万人（2009年、厚生労働省発表）。また、全国で起こる殺人事件は、年間1200件～1300件で、そのうちの3%は、介護疲れによる殺人である。そう。私たちの国にとって、認知症対策の整備は急務を要する。

「認知症」に対する基本的な考え

厚生労働省は、2015年1月に、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を発表した。基本的な考えに「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」ことを置き、①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供、③若年性認知症施策への強化、④認知症の人の介護者への支援、⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進、⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進、⑦認知症の人やその家族の視点の重視の7つの柱を掲げている。

「認知症サポーター」と「認知症カフェ」

三重県の認知症高齢者数は、2010年の調査で42万人となっており、65歳以上の人口の9.5%を占める。2025年には、12.8%を占める68万人が認知症高齢者になると推測されている。県では、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を見守るための「認知症サポーター」を養成している。2015年3

月31日の時点で、108,069人のサポーターを養成しているが、若い世代へのアプローチが不足していることを課題とし、2017年度末までに16万人の養成を目標にしている。また認知症コールセンターや認知症疾患医療センターにおいて電話相談を行っているが、アンケート結果からその存在を知っている県民が少ないため、積極的な周知が必要な状況である。その他に、医療従事者の認知症対応力の向上を図るため、各医療機関と連携し、認知症サポート医の養成を行ったり、介護従事者の資質向上を図るため、認知症介護実践者等の研修を行ったりしている。

また、企業と連携して認知症カフェの開設も意欲的に進めている。伊賀市では、(有)イトーファーマシーと協働して昨年度はじめて認知症カフェを開いた。認知症カフェは介護をする家族同士が「話を共有する場」として非常に大切な空間となっている。介護はしたことがある人にしか分からない話もあり、自分1人でなんとかしようとするのはとても難しいこと。認知症カフェのように気軽に話せる、相談できる場づくりは県内各地で行われており、当事者だけでなくその家族をサポートしようという動きが広がっている。

その人の尊厳を大切に

閑静な住宅街に小規模デイサービスを構えるNPO法人シルバーサービス憩いの汀^{みぎわ}は、重い認知症を抱える方や若年性アルツハイマーの方、介護予防の方などさまざまな方が利用されている。代表の西口さんが、認知症を患った家族を介護する中で、認知症の方にとっては、大きな場所でサポートを行うより、小さい家庭的な場所でサポートを行った方が合っているのではないかと考え、立ち上げた。憩いの汀では、個人の経歴や経験を活かしたケアを行っている。例えば昔先生をされていた方は「先生」と呼び、専業主婦をされていた方にはキッチンの手伝いなどをしてもらっている。認知症になると自尊心やプライド、自信などを喪失してしまうと言われていたが、個人が持っていたそれらをサポートしながらケアをすることで、生き活きと暮らすことができるのだ。西口さんは「認知症という言葉は世間に浸透しているが、その中身についてはまだまだ知られていない現状があり、『認知症になってしまった』『認知症だから』と自分や家族を卑下せず生きて欲しい。明日は我が身じゃないけれど、認知症はいつ・誰がなるのか分からないから、その分ひとりひとりが理解をしていってもらえば」と話す。また、間違った対処法をとってしてしまうと、本人にとっても周りにとっても苦しくなってしまうことがあるといい、「見る」「話す」「触れる」「立つことを支える」* という接し方を勧めるとともに、1+1を0や3と答えても「大丈夫」だとエールを送ってあげることが大切だという。最後まで「その人の尊厳を大事にする」ことが、認知症に対する何よりの理解なのである。

医療や福祉だけの問題ではない

「認知症」にはさまざまな原因があり、それによって症状は異なる。しかし、当事者やその家族が抱える思いや悩みには共通するものがあり、そこを支えていくには周囲の人々が認知症に対して正しい理解をしていくことが必要不可欠となってくる。冒頭のような悲しい事件は、まさに私たち、そして社会が正しい理解ができていなかった結果でも

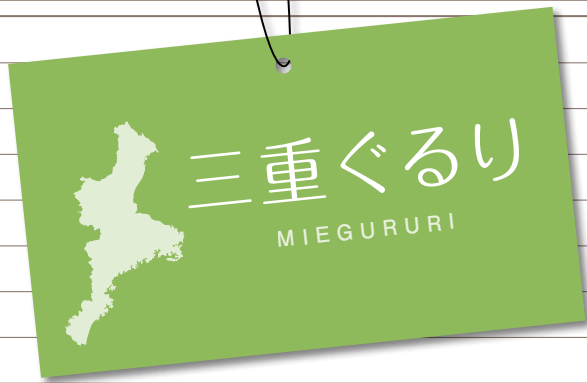
ある。誰もがなり得る「認知症」に危機感を持つことは、自分にとっても、家族にとっても、そして友人や地域、社会全体にとってプラスとなる。

まずは、当事者の家族、医療や福祉関係者など、認知症の方と接する機会の多い方に対し、今以上に認知症に関する深い知識と理解を学べる機会が必要である。そこから波及する形で、より多くの方に、認知症に対する偏見をなくし、当事者との接し方やさまざまな症状があることなど、正しい理解を浸透させていくことが大切だ。現在、県でも取り組んでいる「認知症カフェ」のように、認知症に関する情報交換ができる場をつくり、地域の中で支え合える仕組みを構築していくのもひとつの手段である。それは政策など大きな範囲での力を発揮できる行政と、当事者に寄り添い地域に根付くことができるNPOなどが協力していければ、より効果的であろう。そして、地域の中で、私たちが暮らしている延長で、周りの人たちとつながりながらもできることがたくさんある。

* ユマニチュード技法：フランスで生まれた認知症のケア技法。よりよい絆を結ぶために「見る」「話す」「触れる」、そして「立つ」ことを援助するという4つの柱を立てており、このケアによって認知症の進行を遅らせることができると言われていた。

<取材・資料提供ご協力（順不同）>

- ・三重県 健康福祉部 長寿介護課 様
- ・有限会社イトーファーマシー 様
- ・NPO法人 シルバーサービス憩いの汀 様



「三重ぐるり」のコーナーでは、毎月テーマを1つ設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今月のテーマは【認知症、高齢者福祉、家族介護】。

高齢化社会にまつわる認知症や介護などの課題解決のためにさまざまな活動が行われています。

認知症、高齢者福祉、家族介護などについて取り組んでいる団体の活動を県内各地の市民活動（支援）センターを通して集めました。

いなべ市在宅介護者家族の会「だいふくの会」

情報提供：みえきた市民活動センター



有志の自主的参加による
赤い羽根の街頭募金活動

在宅で要介護者を介護している家族が、身近な場所で自主的に集い、家族介護者同士の交流を通じた情報交換および、心身リフレッシュを図り、互いに支え合う活動を行っています。おしゃべり会、生け花や金のわらじ作り、桑名の連鶴の折り紙など、会員同士の絆を高める目的で、おのこの趣味や特技を活かした集まりを企画しています。介護する家族が孤立したり、介護疲れによる悲しい事件が起きないように、「だいふくの会」が開催するこれらの交流会に参加してもらい、在宅で介護をしている家族のストレスが溜まらないように活動しています。また、定期的に介護や病気についての勉強会も開催しています。こうした介護者のための団体は、立ち上げても活動が停滞しやすいと言われていますが、さらなる継続のためにがんばっています。

ひと言PR! 100人居れば100通りの介護があります

☎ 090-7049-4481

特定非営利活動法人 四日市在宅介護家族会「街路樹の会」

情報提供：四日市市なやプラザ



2カ月に一回つどいの様子

高齢になれば誰しも住み慣れた自宅で介護を受けたいと願っています。しかし現実には核家族化が進み自宅で介護をしている家族にも高齢化が目立ち「老々介護」「孤独の介護」と称されてさまざまな困難や辛さを抱えています。辛い介護から少しでもゆとりのもてる介護にできないかと設立されたのが「街路樹の会」です。

主たる活動は、在宅介護者とそれを支援する者が2カ月に一回つどい、悩みや辛い思いだけでなく充実感や経験を語りあい介護の方法などを学んだり情報交換もしています。この会が、孤独感や寂しさや気の休まることのない介護の中でひとときリフレッシュできる場になって、同じ思いのものが互いに励ましあい在宅介護を続けていける一助になればよいと考えています。

介護の方法に正解はないと思う、この会の交流を通し介護にはさまざまな思いや考え方があることを知り、自分にできる介護がみつけれられるよう進めていきたいです。

ひと言PR! 「街路樹の会」では、自分の悩み・辛さ・自己嫌悪・・・等、なんでも本音で喋っても大丈夫!どんな思いも会員の皆さんは温かく受け止めてくれます。

〒 510-8034 四日市市大矢知町1141
☎ 090-3931-3770
✉ hitomi@m2.cty-net.ne.jp

特定非営利活動法人 シルバーサービス憩いの汀^{みぎわ}

情報提供：津市市民活動センター



設立10周年記念総会パーティでのスタッフ出し物

ひと言PR!

小さな介護事業所が集まり、社団法人小規模ケア研究会を立ち上げました。交流会や初任者研修を行っています。定年退職者やシングルマザーや子育て中のママにも資格を取っていただきたいと考えています。

介護保険の認定を受けた人が、介護を受けるために集まる施設、それが「シルバーサービス憩いの汀^{みぎわ}」です。お体が不自由でも、認知症があっても、その人らしく穏やかに過ごせる方法はあるはず！を目標に、3つの憩いの汀^{みぎわ}プログラムがあります。Ⅰは居宅介護支援、通所介護、介護予防通所介護を受ける方に、入浴・お花・体操・コラージュ・音楽療法・マッサージ等を提供し、Ⅱは通所介護と介護なんでも相談室を行い、ゆび編・塗絵など、要介護度、認知症の状態などによって選べたり、必要に応じ個別ケアも実施しています。Ⅲは介護予防通所介護と介護保険外実費宿泊です。介護予防通所介護とは「要介護者になることの予防」を目的としたプログラムです。その他、希望があれば歩行訓練、機能訓練、口腔ケアも行っただけです。毎月1回第4土曜日は生き生きサロン（介護予防）を開催し地域の方々にも開放しています。

〒514-0013 津市海岸町14-20
☎059-227-4705
✉zbn23dvp@za.ztv.ne.jp

松阪市老人クラブ連合会

情報提供：松阪市市民活動センター



介護者カフェの様子

ひと言PR!

「介護者カフェ」は、毎月第2木曜の10時30分～15時頃まで、松阪市市民活動センターで開催しています。認知症の介護に関わる人なら、誰でもお越しください。27年度からは会場を旧町単位にすることも検討しています。

いま、高齢者を取り巻く話題のひとつに「老老介護」があります。2013年、介護が必要な65歳以上の高齢者がいる世帯のうち、介護者も65歳以上である「老老介護」世帯の割合が初めて5割を超えました。もちろん松阪も例外ではありません。そんななか、松阪市老人クラブ連合会では、昨年7月から、認知症など家庭内介護に関わる介護者を対象にして、ひとときの憩いと語らひの場を提供しようと「介護者カフェ」を始めました。これは、十万人規模の老人クラブ連合会の事業としては、全国初の試みです。月に1度、定期的で開催しており、介護者は自由に訪れ、お茶やお菓子をつまみながら、思い思いに語り合ったり、情報交換をしたりしています。現在の参加者は女性が多く「介護の悩みを一人で抱え込まないで話し合えてありがたい」「気持ちが一掃になった」と語っているそうです。地域で介護をサポートする取り組みとして、今後は開催地を合併前の旧町単位にすることも検討しています。

〒515-0073 松阪市殿町1360番地16
☎0598-23-3383
✉matsuroren@sunny.ocn.ne.jp

特定非営利活動法人 ケアハウスたんぽぽ

情報提供：東紀州コミュニティデザイン



施設でのガーデニング活動の様子

ひと言PR!

認知症の利用者の中には、施設でのデイサービスを望まず、在宅での介護を希望される方が多くいますが、そんな方が最後の時まで自分の家で生活できる社会を目指し、在宅医療の実現に向けて日々取り組んでいます。

グループホームで認知症の方に携わる中で、「最終的にどんな状態になっても、自分の住み慣れた環境・地域で生活することを支えていきたい」と強く思った経験から、重度の方も含めた要介護者・障がい者、その他手助けを必要とする方々に対し、地域に根差した介護サービスを行うために立ち上げたのが同法人です。平成14年より訪問介護・居宅介護支援の事業を始め、その後もさまざまな事業を実施してきましたが、特に、平成17年にデイサービス事業を開始したほか、平成24年にはサービス付高齢者向け住宅を開設するなど、地域の利用者の要望に応える形で事業を推進しています。今後も「認知症の人が在宅生活を続けられる介護サービスをいかに提供するか」を同法人の命題とし、自分の家で過ごしたいという利用者の方々の要望をできる限り尊重するとともに、地域と密に寄り添ったサービスを幅広く提供していきます。

〒519-4325 熊野市有馬町山崎前 4520-345
☎0597-89-3181
✉tanpopo-kishu-tk@amail.plala.or.jp

クローズアップ

—協創のヒント集—

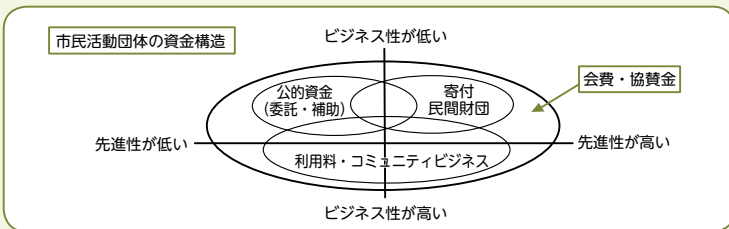
県民が力を合わせることによって、地域社会で「今までできなかったことができるようになる」ために大切なヒントを毎月ご紹介します。

ヒント 22

多様な財源を創り出す

「新しい公共」の担い手として位置づけられる主体のうち、市民活動団体のみが、本源的な自主財源を持たない構造になっています。市民活動団体の財源は、これまで公的資金、寄付金、会費、自主事業収入などのミックスとして捉えられてきましたが、「新しい公共」の担い手として位置づけられる以上、市民活動の財源は誰が負担すべきなのか、整理しておく必要があります。

市民活動の特色の一つは、アイデアの先進性にあります。このように、市民活動の内容に応じて、公共サービスや活動の公共性の高さ、先進性、ビジネス性などに基づいて整理し、ふさわしい財源を明らかにしたものが下記の図です。



事例

- 1 寄付文化の創造を目指す
「ささえあいのまち創造基金」(四日市市)
実施主体 一般財団法人ささえあいのまち創造基金(NPO)
(2014年2月6日に公益財団法人に変更)
- 2 市民活動団体が自分たちで作る
「市民活動応援☆きらきら基金」(桑名市)
実施主体 特定非営利活動法人みえきた市民活動センター(NPO)
- 3 「民」が「官」も支援する「岡田文化財団」(菟野町)
実施主体 公益財団法人岡田文化財団
- 4 活動で得られた資金で地域の基盤整備
「てんまうら天満浦百人会の活動」(尾鷲市)
実施主体 特定非営利活動法人天満浦百人会(NPO)

引用:『夢をかたちにするまちづくり〜「新しい公共」のヒント集〜』(三重県・新しい公共円卓会議/2013年3月発行)

活動のぞき見隊 Vol.21

Wara ひろばの「Wara」は「笑う」と「わらわらべ」の「Wara」。子どもや親の笑顔を見たいという想いがこめられています。子ども向けのイベントだけではなく、子育ての相談をすることができないと悩む母親の交流の場としても活用されています。さまざまな交流の場として利用されることで、子育てにとって良い環境をつくり、少子化対策や児童虐待防止につなげていくことを目指しています。



NPO法人「市民ネットワークすずかのぶどう」が運営するスペースの一角で活動している、「輝く瞳 Wara ひろば」の親子体験教室を見学してきました!白子サンズ3階にあるスペースで毎週日曜日にさまざまな手作り体験教室が行われています。2014年5月に第1回が開催され、好評だったためイベントが定着していきました。本年2月に行われたイベントには約200もの人が集まりました。現在は白子サンズの協力を得て共同イベントも開催されています。2015年5月6日(水・休)にはWaraひろば1周年「Waraひろば祭り!」が開催されます。子どもが店長として活躍するWaraっこ商店街や親子体験教室、自然クラフト体験を楽しむことができます。



子どもたちがつくったハンドメイド作品が並べられています。



プレイコーナーはいつでも子ども(保護者同伴)が遊べるスペースになっています。

尾鷲ヒノキのレーシングカーづくり。お兄ちゃんのみまで作っていました!

記者の雑感 記者 大槻

市民ネットワークすずかのぶどうの事務局長である小嶋さんは、子どもと向き合い触れ合う時間が大切だと語ってくださいました。Waraひろばでは、子どもが自分の手でなにかをつくる体験を通じて親子で触れ合う時間をつくることができます。ものをつくる経験の中で、達成感を得ながら新しい発見をしていく子どもたちがとても印象的でした。オープンな雰囲気や温かみのある場所なのでママさん、パパさん、お父さんと是非足を運んでみてください。

大型プリンターが新しくなりました!

みえ県民交流センターの大型プリンターが新しくなりました。今までよりもキレイに!速く!ポスターや横断幕の印刷ができるようになりました。団体の活動に是非ご利用ください。新しい機械の導入に伴い、利用料金に変更となりますのでご了承ください。※下記料金は2015年6月1日から運用開始です。それまでの料金につきましては窓口までお問い合わせください

【大型プリンター利用料】

<対象>市民活動・NPO、ボランティアに関わる内容、公共性のあるもの

A1 サイズ (594mm × 841mm)	1 枚	利用料 410 円	印刷代 590 円
B2 サイズ (515mm × 728mm)	1 枚	利用料 410 円	印刷代 390 円
A1 長尺紙 1 m (594mm × 1,000mm)		利用料 410 円	印刷代 790 円
B2 長尺紙 1 m (515mm × 1,000mm)		利用料 410 円	印刷代 590 円

<備考>ポスター・横断幕のデザインに関わらず、一律同じ料金とする。

※必ず原紙ではなく USB メモリなどでデータをお持ちください

ポスターの場合:ワード、エクセル、パワーポイント、JPEG、PDF 等

横断幕の場合:イラストレーターや Microsoft Office Publisher 等で原寸サイズで作成しお持ちください

【横断幕作成サービス利用料】

<対象>市民活動・NPO、ボランティアに関わる内容、公共性のあるもの

データをお持ちでなくてもご利用いただけます。※納期についてはご相談ください

< A1 サイズ >

2メートル (縦 594mm × 横 2,000mm)	印刷代 3,390 円
3メートル (縦 594mm × 横 3,000mm)	印刷代 4,590 円
4メートル (縦 594mm × 横 4,000mm)	印刷代 5,790 円
5メートル (縦 594mm × 横 5,000mm)	印刷代 6,990 円

< B2 サイズ >

2メートル (縦 515mm × 横 2,000mm)	印刷代 2,990 円
3メートル (縦 515mm × 横 3,000mm)	印刷代 3,990 円
4メートル (縦 515mm × 横 4,000mm)	印刷代 4,990 円
5メートル (縦 515mm × 横 5,000mm)	印刷代 5,990 円

1m 増えるごとに A1 は 1,200 円アップ、B2 は 1,000 円アップ。
1メートル未満は繰り上げとする
(1.5m は 2m 分の料金をいただく)

ニュース 6月号からイベント情報掲載コーナーが復活します!

2014年8月号に終了したイベントや講座等を掲載する「募集と案内」コーナーが2015年6月号より復活します!

掲載をご希望の方は、原稿をみえ市民活動ボランティアセンターまでお寄せください。

毎月発行月の1日が締切となります。(7月号の場合は6月1日、8月号の場合は7月1日です)

※2015年6月号の募集は5月7日(木)までです。

みえぎんNPOローン 好評取扱中

委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として
最高1,000万円まで無担保でご融資!

対象:三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するNPO法人

※ただし、当行所定の審査の結果、
ご希望に添えないことがあります。

“地域とともに みなさまとともに”

詳しくはTEL059-354-7130(審査部)まで
URL: <http://www.miebank.co.jp>



三重県の新名物

伊勢おやき本舗

年齢、国籍、性別、障害の有無にかかわらず
ともに働き、ともに成長する「ユニバーサル就労」の店



イベント出店、ご当地おやきの開発など、各種御相談に応じます。

四日市市諏訪栄町 3-4 TEL/FAX 059-355-5115 ssk21www@yahoo.co.jp

助成金情報

助成金情報はみえ市民活動ボランティアセンターホームページでも多数ご紹介しております

① 締め切り・募集期間 ② 対象 ③ 助成金額／表彰内容

三重県産業支援センター 平成 27 年度 みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金募集

① 5月15日(金) 17:00 必着 ② 三重県内に主たる事務所(事業所)を有する創業者、または新事業を行おうとする中小企業者・NPO法人等 ③ A. 地域資源活用型:1件の上限400万円(助成率2/3、助成期間2年以内) B. 地域課題解決型:1件の上限200万円(助成率2/3、助成期間1年以内)

高原環境財団 緑化を伴うヒートアイランド対策&子どもたちの環境学習活動助成

① 5月22日(金) 必着
【A】緑化を伴うヒートアイランド対策 ② 日本国内に所在する法人、地域活動団体 ③ 1件の上限200万円(総額600万円)
【B】子どもたちの環境学習活動 ② 日本国内の保育園、幼稚園、小学校およびNPO法人等の地域活動団体 ③ 1件の上限50万円(総額400万円)

中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金(ボラサボ)」第17次助成

① 5月15日(金)～5月29日(金) 必着 ② 東日本大震災で被災された方がたへの救援・支援活動を行うボランティアグループ、NPO法人等 ③ 短期(30日未満)の活動:50万円以内、中長期(30日以上)の活動:300万円以内、重点活動助成(350日以上):1,000万円以内

大同生命厚生事業団 サラリーマン(ウーマン)/シニアボランティア活動助成

① 5月29日(金) 必着 ② 社会福祉にかかわるボランティア活動に取り組むサラリーマン(ウーマン)またはシニア(年齢60歳以上)のグループ ③ 1件 原則10万円(総額600万円以内)

東海ジェンダー研究所 第19回 団体研究助成

① 5月31日(日) 当日消印有効 ② ジェンダー問題について研究する団体およびグループ ③ 1研究につき10万円～30万円

みずほ教育福祉財団 第13回「配食用小型電気自動車寄贈事業」

① 6月5日(金) 当日消印有効 ② 高齢者を対象とした配食サービス活動を継続して行っている民間グループ(NPO、非営利の公益団体等) ③ 配食用小型電気自動車を寄贈(1台の助成金総額は100万円)10グループを予定

読売新聞 第9回「よみうり子育て応援団大賞」募集

① 6月10日(水) 必着 ② 子どもや親を対象にした支援活動を行う民間のグループや団体 ③ 大賞:賞金200万円(1団体)、奨励賞:賞金100万円(2団体)

スタッフルール

今月号のテーマは認知症です。2012年時点のデータでは、認知症の人は65歳以上で約462万人、約7人に1人だそうです。それに伴いさまざまな問題が起こっています。消費者被害、交通事故、さらに最近深刻な問題となっている徘徊行方不明者は1万人もいるそうです。

一方で若年認知症の問題もあります。40代50代で発症する人も少なくなく、職場では中堅どころ、家では家事や育児を切り盛りしている、まさに働き盛りの人々です。高齢者の認知症に比べると、生活課題が直接関係してくるので、さらに負担が大きくなります。政府は「認知症国家戦略」を策定し、就労継続の支援の充実も盛り込んだそうです。当事者や家族にとって生活の基盤が揺るがない暮らしができるよう、最大限にこの戦略を活かして欲しいと思います。

だれでも認知症になる可能性はあります。本人、家族の負担を減らせる体制になるように、また住み慣れた地域で暮らし続けられるような社会になるようにと願います。

(田中)



特定非営利活動法人

(2015年3月10日～2015年4月9日認定分)

① 法人名 ② 主たる事務所の所在地 ③ 活動分野 ④ 認証年月日 ⑤ 代表者

- ① 特定非営利活動法人 1124
- ② 津市大門 24 番 20 号
- ③ まちづくり、観光の振興、学術、経済活動、その他、多文化共生社会
- ④ 2015年3月10日
- ⑤ 理事長 有澤 康志

- ① 特定非営利活動法人 プレイルハート
- ② 津市白塚町 2592 番地 1
- ③ まちづくり、観光の振興、学術、人権、その他
- ④ 2015年3月10日
- ⑤ 理事長 山地 邦尚

- ① 特定非営利活動法人 家族ピアサポートすたーとらいん
- ② 津市安東町 1940 番地
- ③ 保健、社会教育、男女、その他
- ④ 2015年4月2日
- ⑤ 理事長 岡田 くめ子

- ① 特定非営利活動法人 ミライツリー
- ② 津市相生町 314 番地
- ③ まちづくり、環境、地域安全
- ④ 2015年3月16日
- ⑤ 理事長 大嶋 悟

- ① NPO 法人 ネットワークくわこ
- ② 桑名市北寺町 61 番地
- ③ 保健、社会教育、まちづくり、学術、子ども、その他
- ④ 2015年3月16日
- ⑤ 理事長 堀内 千春

- ① 特定非営利活動法人 むうの木
- ② 員分郡東員町笹尾東一丁目 7 番 2
- ③ 保健、社会教育、学術
- ④ 2015年4月6日
- ⑤ 理事長 新美 恵子

- ① NPO 法人 アドレナ
- ② 名張市緑が丘東 80 番地
- ③ 保健、まちづくり、観光の振興、学術、環境、人権、国際、子ども、経済活動、職業能力、消費者
- ④ 2015年3月10日
- ⑤ 理事長 山下 隆子

- ① 特定非営利活動法人 モトクロス選手会
- ② 鈴鹿市算所一丁目 1 番 18 号
- ③ まちづくり、学術、子ども、経済活動
- ④ 2015年3月23日
- ⑤ 理事長 小島 庸平



転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者:みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。

READER はこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】(津市)みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学 (桑名市)桑名市市民活動センター (いなべ市)いなべ市市民活動センター (東員町)とういんボランティア市民活動支援センター (四日市市)四日市市なやプラザ/四日市大学 (亀山市)亀山市市民協働センター (鈴鹿市)市民ネットワークすずかのびどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学 (松阪市)松阪市市民活動センター (伊勢市)いせ市民活動センター/皇學館大学 (志摩市)阿児アリーナ/横山ビジターセンター (名張市)名張市市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター (伊賀市)伊賀市市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所 (尾鷲市)東紀州コミュニティデザイン (明和町)めいわ市民活動サポートセンター (南伊勢町)南伊勢町町民文化会館 (紀宝町)紀宝町ボランティア市民活動センター

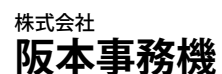
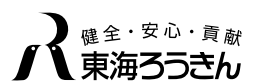
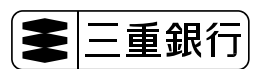
【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JAバンク各店/メディカル光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(地域防災総合事務所(桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀) 地域活性化局(南勢志摩、紀北、紀南)/三重県栄町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター「フロンテみえ」/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

協賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。



環境にやさしい植物油インキを使用しています。